

叡嶽不動寺の峠より琵琶湖をはるかに美ろせば、楽々波や丹穂てる沖の舟は朝霧にかくれ、から崎の松は夕しぐれに翠の色をあらはし、浜の真砂地に駒とめて、比良の高嶺の花を見ると眺し頼政の昔も思ひ出られ侍る。王維が山水の画賦に、遠人に目なし丈山尺樹寸馬豆人の掟も、此所よりの双眸に遮りて、淡海の八勝連綿として近衛政家卿も魂をうごかし給ひし佳境なり。